

# さいたま市議団ニュース

日本共産党  
No.897  
2020.11.22

発行

日本共産党さいたま市議会議員団  
TEL 048-829-1811 FAX 048-833-8165  
http://www.jcp-saitama.jp/

神田よしゆき	とば めぐみ
とりうみ敏行	金子 あきよ
松村 としお	たけこし 連
久保 みき	

## 12月議会がはじまります



とりうみ敏行市議



たけこし連市議

11月25日(水)から12月18日(金)まで12月議会が開催されます。一般質問には、とりうみ敏行市議とたけこし連市議が登場します。インターネット中継もおこなわれます。ぜひ傍聴してください。

### ■党市議団が提出した意見書(案)

①国の給付金制度の改善及び延長を求める意見書(案)

②医療機関への支援を求める意見書(案)  
③ICT教育に係る通信費への支援の継続を求める意見書(案)  
全会一致で採択されれば国へ送致されます。

### ■3件の請願の紹介議員に

①新型コロナウイルス感染防止のため20人程度の少人数学級実現を求める請願  
②日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める意見書を上げてください  
③新型コロナウイルス感染「第3波」に備え介護・福祉現場に支援・保障を求める請願  
採択を求めて全力をあげます。ご注目ください。

## 市独自の少人数学級に強い要望

### 市民団体と市教委が懇談



ました。これに対して同会から「市教委として強い願いをもって実現に向けて予算要望をしてほしい」と重ねて要望の声が出されました。

11月12日に「学びと健康を保障する少人数学級を求める会」がさいたま市教育委員会と懇談をおこない、松村としお、とばめぐみ両市議が同席しました。

同会からは、コロナ禍において広範な立場から少人数学級の導入を希望する声があり、文部科学省も積極的な姿勢をみせているもとの、市教委の姿勢についてさまざまな質問や要望が出されました。「これまでどおり少人数学級の効果を認めるか」の質問については、認める旨の返事がありました。また、「教員を増やさないと学校現場は大変。市教委として予算を確保してほしい」という要望に対し市教委は「スクールサポートスタッフを配置したことで教員の負担軽減につながった。教員数については国に要望したい」と返答し

また、参加者から「さいたま市と横浜市は36人以上の学級が占める割合が多い」との指摘に市教委は都市部であることを理由にあげましたが、参加者は「だからこそさいたま市は独自の手立てが必要」と迫りました。

参加者からはコロナ禍のもとの教員の負担に触れて「教員が希望をもって働ける環境を国よりも先につくり、長く働ける策を提案してほしい」「『国がやること』とすませるのではなく、市独自の対策を進めてほしい」と少人数学級への強い期待が語られました。

同席した松村市議は「少人数学級は学級編成基準をどうするかにとどまらず、子どもの生活やコロナ対策にも通じる問題。市教委をあげて検討しとりくむべき」と話しました。



11月15日、西部文化センターにて西区の住民のみなさんに向けた市政報告会が開催され、久保みき市議が9月議会の報告をおこないました。

報告の後の質疑応答では、参加者から多くの発言がありました。今年の台風19号を受

けて深刻になった水害対策については、荒川第2・第3調整池整備計画に関わる質問や、滝沼川遊水地をピオトープ(自然の生態系を身近に感じられる空間)や市民の憩いの場にできないかなどの提案がありました。

新型コロナウイルス関連では、「市の医療体制を強化するため、市立大学で医学部を設置すべき」「密を防ぐ意味で国も必要性を認めている少人数学級を市独自で早く実施すべき」といった意見が活発に出されました。

久保市議は「西区のみなさんは市政に対する要求がたくさんあり、時間が足りないほどだった。その思いを受け止め、要求実現のために力を尽くしたい」と語りました。

# 地域で暮らし働くことを大事に



視察する(右から)たけこし、とばの両市議

11月10日、とばめぐみとたけこし連の両市議が、障害のある人たちの労働や生活を支援する事業を展開する鴻沼福祉会(中央区円阿弥)を視察しました。

同会は作業所5カ所、グループホーム2カ所、そして生活ホーム7カ所を運営しています。会では、ホームで暮らす障害者の高齢化に直面しており、訪問看護やヘルパー制度を駆使して最期を看取るまで1人ひとり

を支えてきました。  
作業所では近くの工場から任された袋詰めの仕事や、本格的なパンづくりがおこなわれていました。施設長は「仕事が終わったら作業所から自宅(ホーム)に帰り、誰かが『おかえり』と迎えてくれる、そんな当たり前の

暮らしを地域で保障することが大事」と語りました。一方で、グループホームは慢性的な人手不足に加え、年間1500万円の運営費の赤字が出るなどの実態が出されました。とば市議は「市が責任をもって財政支援するよう議会で強く求める」と話しました。

## 要支援者避難計画

### 先進的なとりくみに学んで

東日本大震災の際、被災地全体の死者数のうち65歳以上が約6割を占め、障害者の死亡率は全体死亡率の約2倍を上回りました。この実態から、災害対策基本法が改正され、避難行動要支援者名簿を活用した実効性のある避難支援がおこなわれるよう、市町村は自治会などと連携して要支援者1人ひとりの避難計画を作成することとなりました。しかしハードルは高く、さいたま市では全体の1%しか作成できていません。

11月9日、久保みき市議は三橋4丁目自治会の避難行動要支援者の災害時の避難計画と支援のとりくみについてお話をうかがいま



三橋4丁目自治会のみなさんのお話をうかがう久保市議(左から2人目)

した。自治会長によると「民生委員と協力して要支援者への訪問を重ね、個別プランカードを作成している。自治会独自で2つの病院およびガソリンスタンドと提携、重度障害者等は特別養護老人ホームに直接避難できるよう提携している」とのことでした。

久保市議は「1人でも多くの要支援者の命を守りたいという思いに感動した。先進的なとりくみに学び、全市に広げたい」と話しました。

# 台風19号の教訓をふまえ 複合災害への備えを

11月10日、総合政策委員会で複合災害に関する危機管理のとりくみが報告され、とばめぐみ、たけこし連の両委員が出席しました。

はじめに、今年の台風19号に対する防災対策を検証し改善したこととして、治水対策では油面川排水機場の前倒し整備について、避難対策では指定避難所の見直し(10カ所増設)や避難所標識の表示張り替えなどが報告されました。

また、避難所における新型コロナウイルス対策として、分散避難の広報や二次避難所の開設、感染症対策を踏まえた避難所運営マニュアルの作成が報告されました。避難所に備



ファミリーパーティションの展示を見るたけこし市議

える感染症対策物資が展示され、各備品について説明を受けました。たけこし市議が避難所への導入を求めてきたエアマットやファミリーパーティションをはじめ、段ボールベッドや液体ミルクも新たに備蓄されます。たけこし市議は「まだまだ足りない避難所を増やし、さらに環境を改善させていきたい」と話しました。

## あなたの身近な議員です



市議(北区) 神田よしゆき 市議(浦和区) とりうみ敏行 市議(緑区) 松村としお 市議(桜区) 久保みき 市議(見沼区) とばめぐみ 市議(南区) 金子あきよ 市議(中央区) たけこし連